

トピックス第4回

「子どもの声が未来を創る」

～「次世代の参画（こどもと若者の意見表明）と町の未来に関するアンケート」から～

安芸太田町教育委員会では、児童（4～6年生）・生徒および保護者を対象に、「次世代の参画（こどもと若者の意見表明）と町の未来に関するアンケート」を令和8年3月に実施（同ホームページに結果を掲載）しました。本アンケートの目的は、こども基本法の理念に基づき、おとなと子どもの意識のギャップや生活上のニーズを可視化し、その声を施策へ反映させることにあります。さらに、継続的な対話の仕組みを構築し、子どもとおとなの信頼関係を深めていくことを目指しています。

この取組は、単なる意識調査にとどまりません。若者の地域への帰属意識を高め、将来的な定住促進へとつなげる「地域経営」の視点を持つものであり、行政が子どもを「守るべき対象」から「共に町の未来を創るパートナー」へと位置付け直す、新たな挑戦でもあります。

「どうせ言っても、おとなの世界は変わらないのではないか。」

そんな思いを抱えながらも、町の未来を真剣に見つめている子どもたちがいます。今、広島県安芸太田町から全国へ届けたいのは、子どもや若者が自らの意見を表明することで生まれる、大きな可能性です。

今回のアンケートでは、保護者の100%が「子どもの意見表明権は重要である」と回答し、99%が「子どもの意見を町の政策に反映すべきである」と考えていることが分かりました。また、87%の子どもたちが自らの権利を認識し、70%の児童生徒が「この町をより良くするために、自分の意見を伝えたい」と回答しています。

「自分の声で、大好きな町をもっと良くしたい。」という素直な思いこそが、地域の未来を切り拓く原動力です。

1 大人にはない視点が町を育てる

子どもたちの言葉には、私たちおとなが見落としがちな課題や、新鮮な発想が数多く含まれています。

・「コンビニやお店を増やしてほしい」

- ・「中学校でもマーチングバンドを続けたい」
- ・「使われていない信号機を見直し、その費用を別のことに活用できないか」

これらは単なる要望ではありません。自分たちの暮らしをより良くしたいという願いであり、地域社会への主体的な参画意識の表れです。

安芸太田町教育振興基本計画では、「発展可能な町の創り手の育成」を総括的なコンセプトとして掲げています。その第一歩となるのが、「自分の意見を伝える」という経験です。

自ら考え、声を上げ、その声が地域の変化につながる。その積み重ねは、子どもたちに自己有用感や社会参画への意欲を育みます。そして子どもたちは、単に支えられる存在ではなく、地域の未来を担う「創り手」へと成長していくのです。

2 「安芸太田町らしいウェルビーイングの向上」を目指して

一方で、子どもたちが安心して意見を表明するためには、おとなの姿勢が何より重要です。

- ・「どう伝えたらよいか分からない」
- ・「本当に聞いてもらえるのだろうか」

そのような不安に寄り添いながら、スマートフォンやアンケート、対話の場など、多様な方法で意見を届けられる環境を整えていく必要があります。

そして何より大切なのは、子どもの声をまず受け止めることです。すべての意見を実現することは難しいかもしれませんが、しかし、「なぜその意見が大切なのか」

「どのように検討されたのか」を丁寧に伝え返すことで、子どもたちは「自分は社会の一員として認められている」と実感することができます。

この双方向の対話こそが、自己肯定感や安心感を育み、人と人との信頼を深めます。

子どもが未来への希望を語り、おとながその声に真摯に耳を傾ける。そして共に地域の未来を考え、創り上げていく。その営みこそが、教育振興基本計画が目指す「安芸太田町らしいウェルビーイングの向上」の本質です。

子どもたちの声は、町の未来を照らす希望の光です。

私たちのこの挑戦が、全国における子どもの意見表明の推進と、子どもと大人が共に未来を創る社会の実現に向けた、大きな希望の道標となることを願っています。

令和8年5月

安芸太田町教育委員会 教育長 大野 正人